

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|-----------|-----------|--------------|-----|--------|
| 31-95 | 中学校 | 国 語 | 書 写 | 1・2・3年 |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号 | 教 科 書 名 | | |
| 2 東書 | 書写 701 | 新しい書写 一・二・三年 | | |

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く^{ひら}

子供たちの未来を支えるのは、学びの力。

書写で育む資質・能力，文字を書く力も，その重要な要素です。

学校や地域の中で社会の一員として生きていく子供たちに，

文字で表現することで，自分の思いを伝え，人とつながり合う力をつけてほしい。

そんな願いを込めて，次の3点を柱に教科書を編修しました。

特色

1

確かな書写力が身につく

書写のねらいである，文字を正しく整えて速く書くために必要な**知識・技能**を「書写のかぎ」と名付けて，学習事項を明確化・焦点化しました。また，基礎・基本を確実に習得・定着させるために，「書写のかぎ」を核とした学習過程を構成しました。



特色

2

日常に生かす活用力を養う

身につけた「書写のかぎ」を日常生活の中で書く文字に活用するための**思考力，判断力，表現力**を育成します。活用する場面を，基本単元内の「生かそう」と活用単元「生活に広げよう」との2段階で設定しました。



特色

3

文字と向き合う心を育てる

手で書くことの意義に気づき，生涯にわたって自分の文字をよりよくしていきたいと願う。長い歴史の中で育まれてきた我が国の文字文化の価値を知り，継承しようと思う。そんな文字と向き合い考えようとする心を，子供たちの中に芽生えさせます。



特色1

確かな書写力が身につく

「書写のかぎ」を核に「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確化

- 書写のねらいである「文字を正しく整えて速く書く」ために必要な知識・技能を「書写のかぎ」と名付けました。小学校の学習を踏まえて、中学校3年間で学ぶことを系統的に整理し、学年段階に応じて各単元に配置しました。
- 楷書・行書を学ぶ基本単元では、左ページに「書写のかぎ」のインデックスを設けて、当該単元の重要学習事項と、関連する既習事項がひと目で分かるようになっています。
- 「書写のかぎ」を核とした単元展開を見開きでコンパクトにまとめ、学習過程を分かりやすく示しています。



自己評価に役立つ「まとめ」と「書写テスト」

- 楷書と行書の学習では、複数の基本単元ごとに学習内容を振り返る「まとめ」のページと、全国学力・学習状況調査や高等学校入試問題で出題された書写に関する問題を参考に作成した「書写テスト」を設けました。自らの理解度を客観的に評価することで、学びをより確かなものにします。また、書写における**学力向上**にも役立ちます。

「学びやすい教科書」は「教えやすい教科書」

- 学習事項と学習過程が明確になることで、先生にとっても指導すべきポイントが明確になり、**主体的・対話的で深い学び**へと導く授業を実現できます。経験の浅い若手の先生にも分かりやすい単元展開になっています。
- 毛筆基本単元には、インターネットを使って見ることができる教材文字の運筆動画を用意しました（**D** Dマーク）。必要な箇所を繰り返し見ることができるので、効果的な指導が可能です。実演のための準備も不要です。

特色2

日常に生かす活用力を養う

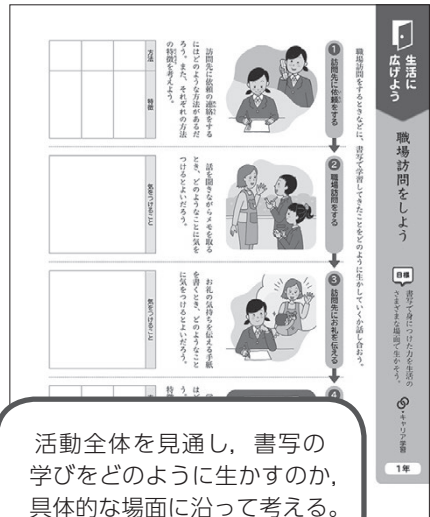
実の場に生かす活用単元「生活に広げよう」

- 基本単元で身につけた知識・技能を生活に生かす単元として、「生活に広げよう」を設けました。国語や他教科の学習、生活の中で扱う書式や内容を題材に、各学年に1～3箇所設定しました。
- 実の場においては、その状況に応じて、身につけた知識・技能の中から使うべきものを選び、**どのように生かすのかを**思考し、判断し、文字として表現することが求められます。生徒に身近な具体的な場面を設定することで、思考力、判断力、表現力を養います。



「生活に広げよう 職場訪問をしよう」 p.45-47

場面ごとに示された実例を参考に、書き方を理解したり実際に書いたりする。



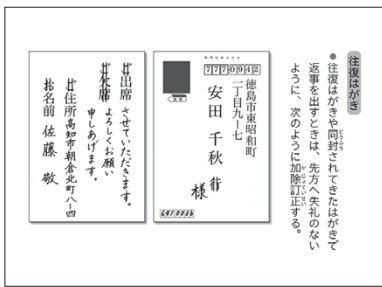
活動全体を見通し、書写の学びをどのように生かすのか、具体的な場面に沿って考える。

生涯役立つ「書写活用ブック」

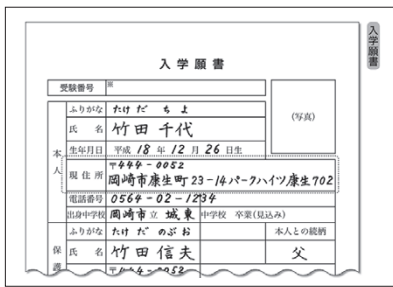
- 教科の学習や日常生活の中でよく使う書式をまとめています。また、手書きの楷書と行書を並べた常用漢字表と人名用漢字表は、生徒が自分の名前を書く際の参考になります。行書の字形は、生徒が参考にしやすいものになっています。社会生活におけるさまざまな場面で活躍する、中学卒業後も役立つ必携の資料です。



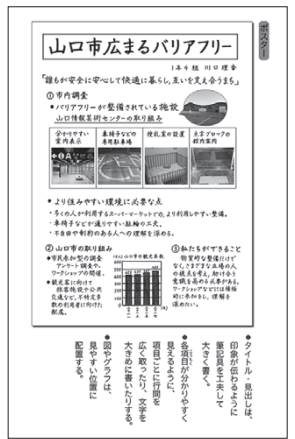
活用ブック p.25



活用ブック p.9



活用ブック p.8



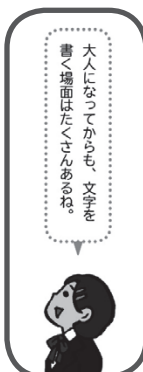
活用ブック p.6

特色3

文字と向き合う心を育てる

書写学習の意義を知る

- 導入の「書写で学ぶこと」では、**書写を学ぶ意義**について考え、中学生としての今だけでなく、将来にも目を向けて、**文字を書く力を高めることの重要性**を意識できるようにしています。
- 3年生の「仕事の中の手書き文字」では、さまざまな職業に携わる人にインタビューをし、手で文字を書くことが仕事の中でどのように役立っているのか、生の声を知ることで、将来の自分と文字との関わりについて考えるきっかけになるようにしています。



「書写で学ぶこと」 p.2-3

文字文化コラム「文字のいずみ」

- 文字の歴史や用具・用材、手書き文字と活字、仕事の中で使われる手書き文字など、伝統的な文字文化から現代に生きる文字文化までさまざまな題材を取り上げて、**文字文化の担い手**として継承し発展させていく態度を育成するよう工夫しました。



「仕事の中の手書き文字」 p.84-85

2. 対照表

| 学年 | 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|----|----------------------|---|--|
| 全 | 書写で学ぶこと 書写の学習の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> ●書写の学習内容やその意義について示すことで、書写の学習を通して幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うよう配慮した。(第一号) ●学習過程を明確にし、見通しを持って学習を進められる構成とすることで、自主・自律の精神と主体的な学習態度を養うよう配慮した。(第二号) | p. 2 - 3 p. 4 |
| 全 | 教材文字 | ●教材文字は、道徳心、自主・自律の精神、自他の敬愛、生命の尊重、環境保全などを重んずる態度を育めるような語彙を選定した。(第一号・第二号・第三号・第四号) | 全般 |
| 全 | イラスト・写真 | ●イラスト・写真における男女の人数や役割、生徒作品例の名前などは、男女の平等に配慮した。(第三号) | 全般 |
| 1年 | 1 小学校の学習を振り返ろう | <ul style="list-style-type: none"> ●生徒の健康管理の観点から、身体に負担の少ない姿勢・執筆法を重視し、写真に解説を加えて分かりやすく示した。(第一号) ●小学校での学習を振り返ることで、中学校での学習の基盤作りと学習習慣の形成に寄与している。また、生徒が自分の姿勢や執筆法、書く文字を見直すことから中学校の学びをスタートする構成とし、個人の価値を尊重してその能力を伸ばすことを意識できるようにした。(第二号) | p. 6 - 13 |
| | 2 楷書の書き方を確かめよう | <ul style="list-style-type: none"> ●場面に応じて楷書で書くための基本的な知識・技能を習得できる構成として、幅広い知識と教養を身につけられるようにした。(第一号) ●単元末の振り返りに対話を位置づけ、自己と他者を尊重し、協動的な学びができるよう工夫した。(第三号) | p. 14 - 25 |
| | 3 行書の書き方を学ぼう | ●行書の基本的な知識・技能を確実に習得できる構成として、幅広い知識と教養を身につけられるようにした。(第一号) | p. 30 - 39 |
| | 生活に広げよう | <ul style="list-style-type: none"> ●伝統的な文字文化である年賀状を題材にして、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養うよう配慮した。(第五号) ●職場訪問を題材にして、勤労を重んずる態度を養い、社会への参画意識を高めるよう工夫した。(第二号・第三号) | p. 42 - 43 p. 45 - 47 |
| | ◆文字のいづみ | <ul style="list-style-type: none"> ●平仮名の学習と関連付けた「いろは歌」や、漢字や仮名の成り立ちを取り上げ、我が国の伝統と文化および他国の文化を尊重する態度を養うよう配慮した。(第五号) ●伝統的な製法で用具・用材を作り続けている生産地を取り上げて、伝統産業への興味・関心を高め、我が国と郷土を愛する態度を養うよう配慮した。(第五号) ●書き初めの題材を複数挙げて、生徒自身の思いや課題意識に応じて選択できるようにし、個人の価値を尊重し創造性を培うよう工夫した。また、伝統文化の継承を意識できるように配慮した。(第二号・第五号) | p. 19 p. 28 - 29 p. 40 - 41 p. 44 |
| 2年 | 1 行書の書き方を学ぼう | <ul style="list-style-type: none"> ●行書の基本的な知識・技能を確実に習得できる構成として、幅広い知識と教養を身につけられるようにした。(第一号) ●単元末の振り返りに対話を位置づけ、自己と他者を尊重し、協動的な学びができるよう工夫した。(第三号) | p. 50 - 55 |
| | 2 行書と仮名を交えて書こう | ●行書と仮名を交えて書くことで、行書に関する知識・技能の習得をより確かにし、幅広い知識と教養を身につけられるようにした。(第一号) | p. 56 - 63 |
| | 3 楷書と行書を選んで書こう | ●場面に応じた書体の使い分けを学習することで、書写学習と生活との関連を重視する態度を養うよう工夫した。(第二号) | p. 66 - 71 |
| | 生活に広げよう | <ul style="list-style-type: none"> ●本のポップを書く活動を通して、創造性を培い、書写学習と生活との関連を重視する態度を養うよう工夫した。(第二号) ●地域社会で行われる防災訓練を題材にして、主体的に社会の形成に参画する態度を養うよう配慮した。(第三号) | p. 64 - 65 p. 75 - 77 |
| | ◆文字のいづみ | ●伝統的な文字絵を取り上げ、現代のマークとの共通点を示すことで、伝統と文化の継承について考えるきっかけとなるよう工夫した。(第五号) | p. 61 |
| 3年 | 1 効果的に文字を書こう | ●身の回りのさまざまな文字の目的や特徴、そこに込められた書き手の意図などを考え、自らも表現する学習を通して、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主・自律の精神を養うよう配慮した。(第二号) | p. 80 - 89 |
| | 生活に広げよう | ●卒業を間近に控えた生徒の思いを、文字を使った作品で表現する活動を通して、個人の価値や表現を尊重する態度を養い、他者と協力することの価値にも気づけるよう工夫した。(第二号・第三号) | p. 91 - 93 |
| | ◆文字のいづみ | <ul style="list-style-type: none"> ●書写学習と職業との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うために、仕事の中で手書き文字を使う人々のインタビュー記事を掲載した。(第二号) ●日本と中国の古典の書を掲載し、我が国の伝統と文化および他国の文化を尊重する態度を養うよう配慮した。(第五号) ●季節にまつわるさまざまな言葉と美しい写真を取り上げ、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮した。(第四号) | p. 84 - 85 p. 94 - 95 p. 109 - 112 |
| 全 | 書写活用ブック | ●学校生活だけでなく生涯にわたって社会生活の中で使用されるさまざまな書式について学ぶことで、社会形成に参画する意識が高まるよう工夫した。(第三号) | 活用ブック p. 1 - 32 |

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

(1) 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ページにわたって検証を行っています。
- 学習の流れや情報の軽重が分かりやすいレイアウトにし、紙面に使用する色の数や分量を抑制することで、生徒の集中を妨げないよう配慮しています。
- 原則として、文意を捉えやすいように文節で改行しています。
- 弱視の生徒の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

(2) ユニバーサルデザインへの取り組み

- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 左利きの生徒の学習しやすさを考慮して、原則として教材文字を上、書き込み欄を下に配置しました。右利き、左利きどちらの場合でも教材文字をしっかりと見ながら書くことができるように配慮しています。

(3) 人権上の配慮

- 作例や写真・イラストなどに登場する人物について、性別による役割の固定化や人数の偏りがないように配慮しました。

(4) 造本上の工夫

- AB判のワイドな紙面を活用して、図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させています。
- 毛筆教材のあるページは、余白を含めて半紙の縦横比率に合わせてあるので、半紙での配列の参考になります。また、書き初め教材には、書き初め用紙原寸大の教材文字を折込で付けています。
- 用紙は、鉛筆で書き込みがしやすく、軽量で耐久性に優れたものを開発し、使用しています。

② 今日的な課題への取り組み

(1) 現代的な諸課題への取り組み

- 伝統・文化に関する学習を重視しました。文字文化をさまざまな側面から取り上げたコラム「文字のいずみ」を通して、我が国の伝統や文化、さらには外国の文字文化を尊重し、これからの文字文化の担い手としての自覚が高まるよう工夫しました。（「文字の成り立ちと移り変わり」(p.28-29)、「伝統的な用具・用材」(p.40-41)、「書いて味わおう」(p.48)、「書くことを楽しむ 日本と世界の文字文化」(裏表紙裏)ほか)
- 言語活動の題材や教材文字に、さまざまな現代的諸課題を関連させて取り上げました。教科横断的な扱いも可能です。
例 **防災教育** 「防災訓練に参加しよう」(p.75-77)、**キャリア教育** 「職場訪問をしよう」(p.45-47)、「仕事の中の手書き文字」(p.84-85)、**環境教育** エネルギーに関する新聞(活用ブックp.4)、**国際理解教育** 多言語対応に関する手紙(活用ブックp.2)、**情報教育** インターネット活用に関するリーフレット(活用ブックp.5)、**バリアフリー教育** 地域のバリアフリーへの取り組みに関するポスター(活用ブックp.6)

(2) 道徳教育との関連

- 豊かな情操と道徳心を養うような語彙を、教材文字として選定しました。
- 対話的な振り返りや学び合いを取り入れた学習活動を通して、互いを尊重し理解を深める態度を養うよう工夫しました。

(3) 小・中・高の連携


- 小学校書写との円滑な接続を図るために、1年生に「小学校の学習を振り返ろう」(p.6-13)を設けました。小学校書写の学習内容をチェックしながら、知識・技能の定着を確認できる構成になっています。
- 高等学校芸術科書道への接続として、書道で扱う古典作品の美しい写真を掲載し、書道を学ぶ高校生の活動などを紹介して、興味・関心を高めるように工夫しました。(p.94-95)

③ 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み


(1) 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶか(「書写のかぎ」)、どのように学ぶか(「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」)の学習過程)ということを確認かつ丁寧に示しているため、無理なく指導ができます。
- 教科書上の二次元コードやURLからインターネットを活用して、毛筆教材文字の運筆動画など指導に役立つ動画や資料を見ることができます。プロジェクトで動画を繰り返し投影しながら机間指導を行うなど、授業の効率化に役立ちます。
- 教師用指導書として、豊富な動画や資料を収録したDVD-ROMやワークシートの作成を予定しており、教材研究や授業の準備を効率的に行えるように工夫しています。

(2) カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 「生活に広げよう」は、国語や他教科で扱われる言語活動や題材を使って教材化しているので、関連付けたり合科的に扱ったりすることが可能です。
- 国語や他教科の学習との関連を  (教科関連マーク) で示しています。(p.26-27,48ほか)

(3) 教育のICT化への取り組み

- 教科書上の  がある単元(p.14-15, 48, 64-65ほか)では、学習に役立つデジタルコンテンツを提供しています。インターネットを使って、毛筆教材文字の運筆動画や、関連する国語や他教科の教科書紙面を見ることができます。家庭学習や個に応じた指導にも効果的です。（「編修趣意書(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)」の「2.対照表」参照。）
- 制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|-----------|-----------|--------------|-----|--------|
| 3 1 - 9 5 | 中学校 | 国 語 | 書 写 | 1・2・3年 |
| 発行者の番号・略称 | 教科書の記号・番号 | 教 科 書 名 | | |
| 2 東書 | 書写 701 | 新しい書写 一・二・三年 | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための工夫

① 「何を学ぶか」を明確にした「書写のかぎ」

- 文字を正しく整えて速く書くための**知識・技能**を「書写のかぎ」と名付けました。単元のねらいを焦点化し、各単元の一つの「書写のかぎ」を配置しています。学習すべきことが明確なので、書写の授業経験の少ない若手の先生でも、手本どおりに書くことを目指すような旧来型の指導に陥ることなく授業を進めることができます。
- キーワードを色文字で強調し、図版も取り入れて、分かりやすく丁寧に示しました。
- 毛筆教材文字のページにある**インデックス**には、単元の学習課題を書き込む欄を置き、書くことで意識化を図ります。また、教材文字に含まれる既習事項を図示することで、確認と定着を図るよう工夫しました。



p.37

② 「どのように学ぶか」が分かりやすい単元展開

「書写のかぎ」を核とした**課題解決型学習**の単元展開です。文字に対してさまざまな**見方・考え方**を働かせて、教材文字から課題を見出し、解決について考えたり言葉に出したりする活動を通じて、主体的に課題に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力等を育成します。**習得と活用**を組み合わせた学習過程になっています。

基本単元

目標

目標

学習目標を捉え、見通しをもつ。

「見つけよう」(課題発見・把握)

硬筆文字から「書写のかぎ」を見つけ出すことで、ふだん書いている文字の課題を意識させ、**主体的な学び**へと導く。

「確かめよう」(確認)

毛筆や硬筆で教材文字を書くことで、「書写のかぎ」を確かめ、理解を深める。

「生かそう」(応用)

「書写のかぎ」をほかの文字にどのように生かせばよいのか考えて書くことで、**思考力、判断力、表現力**を働かせる。

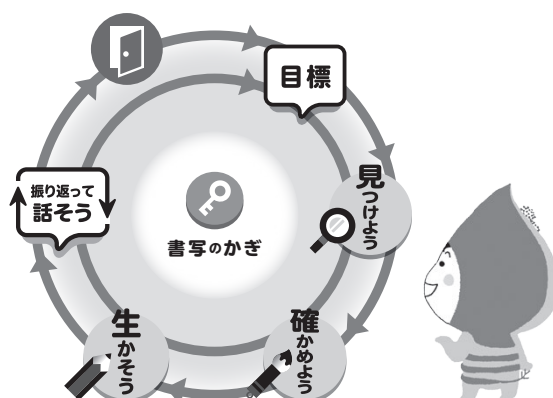
「振り返って話そう」(自己評価・相互評価)

自分で書いた文字を使って、分かったことや考えたことを説明するという**対話的な学び**を取り入れることで、振り返りを深める。

活用単元

「生活に広げよう」

基本単元で身につけた「書写のかぎ」を、国語や他教科の学習、生活の中で活用する。場面に応じて適切に書くにはどうしたらよいか。見方・考え方を働かせて、思考し、判断し、表現することで、**深い学び**を実現する。



3 見通しと振り返りの充実で主体性を引き出す

- 巻頭の「書写で学ぶこと」で、書写学習を通して何を学び、何ができるようになるのかを意識することで、学習に見通しをもって主体的に取り組むことができるように工夫しました。
- 単元末の振り返り「振り返って話そう」では、学んだことを説明するという活動を取り入れることで理解を確かなものにし、対話を促すことで深まりのある評価ができるように導いています。
- 1年の行書学習の導入には、漫画を取り入れました。行書を学ぶ意義を分かりやすく伝えるとともに、学習意欲を喚起し、行書への抵抗感をなくすよう工夫しました。



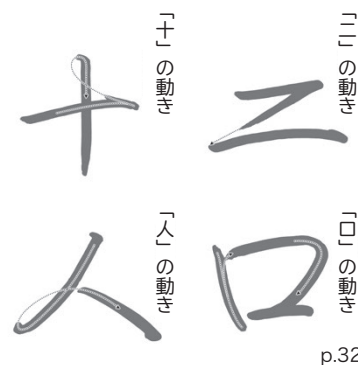
4 知識と技能の評価に役立つ「まとめ」と「書写テスト」

- 楷書と行書の学習では、複数の基本単元ごとに「まとめ」のページを設けました。実際に書いて自らの理解を確かめることができます。それまでの学習が分かりやすくまとめてあり、自学自習にも活用できます。
- 全国学力・学習状況調査や高等学校入試問題で出題された書写に関する問題を参考に、「書写テスト」を作成しました。書いた文字からだけでは見えづらい知識面の理解度を測ることで、書写の学力向上に寄与します。

2 文字を書く動きの重視

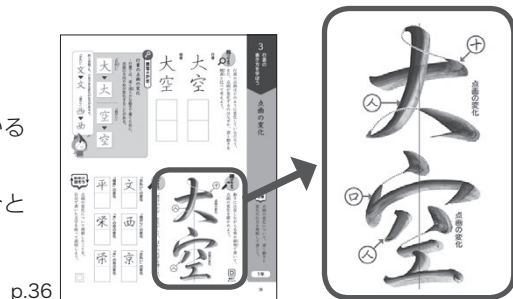
1 行書の特徴的な動きを四つに類型化

- 行書学習では、字形とともに、それを形作る書字動作も重要です。この教科書では、行書を書くときによく出てくる動きを四つに類型化しました。常用漢字 2136 字のうち、9割を超す文字にいずれかの動きが含まれています。この動きを意識しながら書くことで、多くの文字に汎用できる技能を身につけることができます。
- 動きを四つに絞ることで、生徒にも理解しやすく、無理なく行書の動きに慣れることができます。



2 動きが視覚的に分かる朱墨文字

- 毛筆で書く動きがより具体的にイメージできるよう、穂先の通り道が分かる朱墨文字を掲載しました。見やすい配色を工夫しています。(p.34, 36 ほか)
- 四つの動きを意識して書く部分について、朱墨文字にマークを入れて、ひと目で分かるように工夫しました。(p.34, 36 ほか)



3 動画が豊富なデジタルコンテンツ

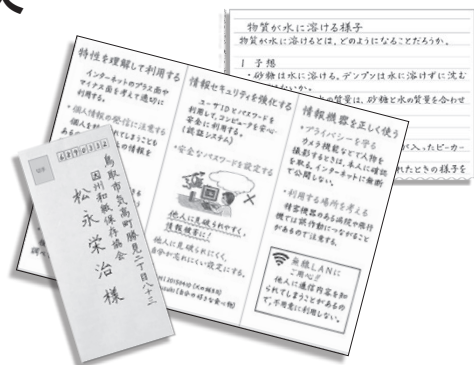
- (D マーク) のある単元では、インターネットを使って学習に役立つ動画や資料などを見ることができます。全ての毛筆教材文字の運筆動画があるので、実演が難しい場合でも、書く動きを分かりやすく示すことができます。プロジェクトで繰り返し投影しながら机間指導を行う、生徒が各自のめあてに沿ってタブレットで見るなど、授業場面に応じてさまざまな方法で活用できます。(D マークのある単元は「2. 対照表」を参照。)



3 書写の学びを日常化させるための工夫

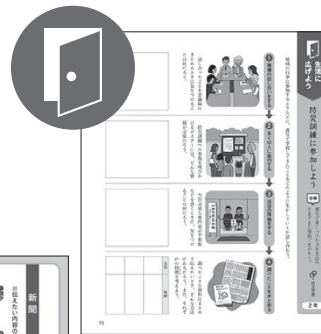
1 豊富な実例

- 文字を書くさまざまな場面で参考になるように、ノートやメモ、手紙、ポスターなど多様な実例を豊富に掲載しています。完成形だけでなく下書きなども示すことで、何を思考し、どのように判断し、表現していったのかという作成過程も参考にできるようにしました。(p.64, 91)
- 生徒が自らの課題に気づききっかけとなるように、正しく整った例だけでなく、改善すべき点がある例も示しました。(p.22, 68 ほか)



2 活用単元「生活に広げよう」

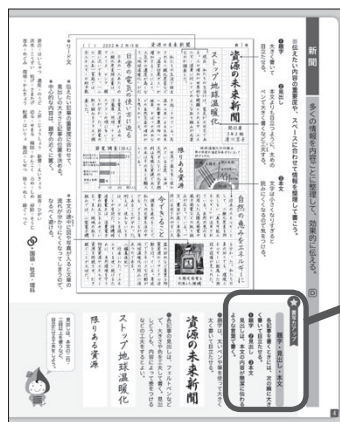
- 生徒にとって身近な場面を題材に、その中で書写の学びをどのように生かすのかについて考える活動を、単元冒頭に設定しました。場面の状況を想定して見通しを立てる。どのように書き表し、伝えればよいか考える。試行錯誤しながら書く課題解決的な活動を通して、実の場でも対応できる思考力、判断力、表現力を育みます。



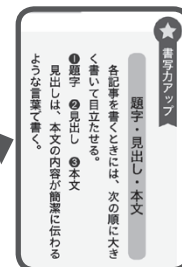
「生活に広げよう 防災訓練に参加しよう」 p.75

3 全教科の学習に役立つ「書写活用ブック」

- 巻末の「書写活用ブック」は、教科の学習や日常生活の中でよく使う書式をまとめています。目的に応じて適した書式を選ぶことを促し、それぞれの書式については基本的な解説に加えて、より読みやすく書くための留意点を「書写力アップ」として示しています。実例は、他教科の学習内容に関連した題材を取り上げ、教科の学習と連動しやすいよう工夫しています。
- 常用漢字 2136 字と人名用漢字 863 字の楷書と行書の手書き文字を並べた漢字表を用意しました。また、「行書の部分の形」として、使用頻度の高い部首とそれを含む漢字を掲載しました。



活用ブック p.4

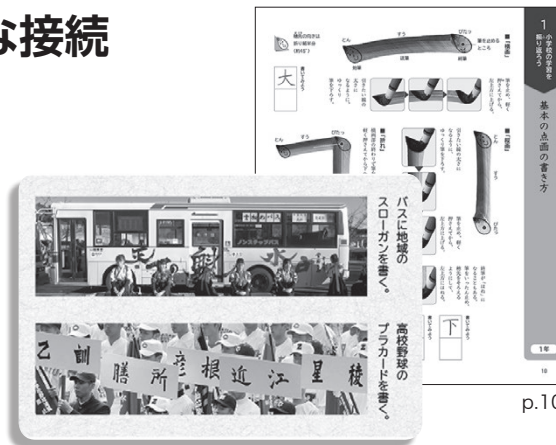


4 国語との連携

- 活用単元「生活に広げよう」では、手紙やポスター、リーフレット、新聞など国語の言語活動で用いられる書式を積極的に取り入れました。国語での学習事項を配慮した内容になっているので、国語の授業と合わせた効率的な指導も可能です。
- 文字文化コラム「文字のいずみ 書いて味わおう」では、国語教科書に掲載されている古典の文章を取り上げました。国語では読んで味わう、書写では書いて味わうというように、国語と関連させつつ、新たな視点で言語文化を楽しむよう工夫しました。(「竹取物語」p.48、「枕草子」p.78、「おくのほそ道」p.96)
- 単元間の「まとめ」のページでは、国語の漢字や語句に関する設問に解答することを通して、国語の学習の中で書写の学びを生かすことを意識化できるよう工夫しました。(p.25, 39ほか)

4 小学校書写、高校書道との円滑な接続

- 1年生の冒頭に「小学校の学習を振り返ろう」(p.6-13)を設けました。実際に書きながら、小学校での学習内容を振り返ることができる構成になっています。改めて自分の書き方や文字を見つめ直すことから、中学校での学びをスタートします。入学当初の生徒の実態把握にも効果的です。
- 高等学校芸術科書道への接続として、3年生に「古典をもとに」(p.94-95)を設けました。中国や日本の古典作品を掲げ、書道の学習内容や書道を学ぶ高校生の活動などについて紹介し、書道への興味・関心を高めるように工夫しました。

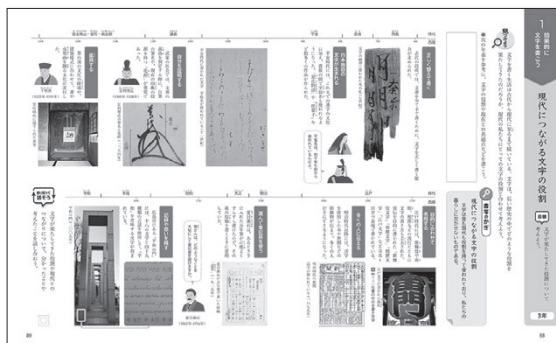


「古典をもとに」 p.95

p.10

5 文字文化を尊重する態度の育成

- 我が国の伝統や文化の中で育まれてきた文字文化についてのコラム「文字のいずみ」を学年4～5箇所設けました。「いろは歌」(p.19)や「文字の成り立ちと移り変わり」(p.28-29)などの伝統的・文字文化から、職業人が仕事の中で使う手書き文字(p.84)などの現代に生きる文字文化までさまざまな題材を取り上げています。これからの文字文化の担い手となる生徒の知的好奇心を刺激する内容です。
- 文字を手書きすることの意義に気づかせ、文字文化に関する認識を改めて形成させるために、3年生に、手書き文字の特徴を学ぶ単元(p.82-83)や、古代から現代につながる文字の役割について知る単元(p.88-89)などを設けました。



「現代につながる文字の役割」 p.88-89

| 観点別内容の特色 | |
|-----------------------|--|
| 教育基本法の遵守 | <ul style="list-style-type: none"> ●書写学習を通して、幅広い知識と教養を身につけるとともに、自らの文字を正しく整ったものにしていく課題解決の過程で、自主・自律の精神を養えるよう編修している。 ●文字文化コラム「文字のいずみ」(p.19, p.28-29ほか)を中心に、伝統と文化を尊重する態度を養うよう配慮している。 |
| 学習指導要領との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領の書写に関する事項をもれなく指導し、ねらいを達成できるよう、単元を組織・配列している。 ●言葉・文字による見方・考え方を働かせて、書写に関する知識・技能を習得し、文字を正しく整えるための思考力、判断力、表現力等を育成するよう編修している。また、文字文化の担い手として継承・発展させる態度を養うよう工夫している。 |
| 学びの系統性・連続性 | <ul style="list-style-type: none"> ●書写学習の基礎・基本的な事項を確実に習得できるよう、学年の発達段階に応じて重点化しながら系統的に単元を配列し、螺旋的に学習できるように工夫している。 ●単元ごとに原則として一つの「書写のかぎ」を置き、学習内容を端的に示した単元名や目標を明示することで、学習のねらいを明確化・焦点化している。 |
| 資質・能力の育成 | <p>①知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書写で学ぶ知識及び技能を「書写のかぎ」として系統的に整理し、各単元に配置した。 ●小学校の学習事項を「小学校の学習を振り返ろう」(p.6-13)で確認し、中学校での学習の基盤を確かなものにしていく。 <p>②思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本単元では、「見つけよう」や「生かさう」などで、文字から「書写のかぎ」を見つけ出したり「書写のかぎ」をほかの文字に応用したりする中で、思考力、判断力、表現力を働かせるようにしている。 ●活用単元「生活に広げよう」では、基本単元で身につけた「書写のかぎ」を国語や他教科の学習、生活の中で活用する。場面に応じて何をどのように生かすのか、思考力、判断力、表現力を働かせるようにしている。 <p>③学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●巻頭の「書写で学ぶこと」(p.2-3)で、書写学習の意義や何ができるようになるのかを知ることで、学習の見通しを持ち、自分の文字をよりよくしていこうとする態度を育成するよう工夫している。 ●写真図版を多く取り入れ、キャラクターやイラスト、漫画による導入などを用いて、意欲的に取り組むための工夫をしている。 |
| 教材の程度・分量、教材文字 | <ul style="list-style-type: none"> ●学年の配当時数に照らして適切な単元数、分量で、硬筆と毛筆の学習ができるようにしている。 ●硬筆文字・毛筆文字ともに、学びやすさを考慮した簡明な筆使いとしている。書風は健康的で明るく、濃度や筆圧にも配慮して執筆している。単元の学習事項に適した字形の文字であり、かつ、内容価値のある語彙を選んでいる。 ●図解やイラスト、写真、朱墨文字などを取り入れて、内容理解の助けとなるよう工夫している。 |
| 硬筆・毛筆指導の関連 | <ul style="list-style-type: none"> ●単元は、①硬筆文字から「書写のかぎ」を発見し課題を共有する → ②毛筆で大きく書くことで確認する → ③硬筆でほかの文字を書くことで定着を図るという展開で、毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるように構成している。 ●毛筆教材と硬筆教材との配分を考慮し適切な順で単元を配列することで、硬筆・毛筆を効果的に関連させた指導ができるようになっている。 |
| 国語や他教科との関連 | <ul style="list-style-type: none"> ●「生活に広げよう」において、手紙や新聞、リーフレット、ポスターなど、国語と連動させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写力の育成を促している。 ●国語や他教科の学習と連動している単元・教材には、 (教科関連マーク) をつけて意識づけを図っている。(p.26-27, 48, 活用 p.6ほか) |
| 授業支援と教員の負担軽減への取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ●何を学ばか(「書写のかぎ」)、どのように学ばか(「見つけよう」「確かめよう」「生かさう」「振り返って話そう」の学習過程)ということを明確かつ丁寧に示して、無理なく指導ができる。 ●教科書上の二次元コードやURLからインターネットを活用して、教材文字の運筆動画を見ることができ、プロジェクトで繰り返し投影しながら机間指導を行うなど、授業の効率化に役立つよう工夫している。 |
| 小・中・高の円滑な接続 | <ul style="list-style-type: none"> ●1年生に「小学校の学習を振り返ろう」(p.6-13)を設け、小学校書写との円滑な接続を図った。小学校書写の学習内容をチェックしながら、知識・技能の定着を確認できる構成とした。 ●高等学校芸術科書道への接続として、書道で扱う古典作品の美しい写真を掲載し、書道を学ぶ高校生の活動などを紹介して、興味・関心を高めるよう工夫した。(p.94-95) |
| カリキュラム・マネジメントへの取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ●「生活に広げよう」は、国語や他教科で扱われる言語活動や題材を使って教材化しているので、関連付けたり合科的に扱ったりすることで効果的な指導ができる。他教科等との関連がある単元・教材には、 (教科関連マーク) を付している。(p.26-27, 48ほか) |
| 教育のICT化への取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ● (Dマーク) がある単元では、学習に役立つデジタルコンテンツを提供している。インターネットを使って、毛筆教材文字の運筆動画を見ることができる。家庭学習や個に応じた指導にも対応できる。 ●制度化された学習者用デジタル教科書の発行を予定している。 |
| 特別支援教育やユニバーサルデザインへの配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ●文意を理解しやすいように、原則として文節で改行している。 ●学習の流れや情報の軽重が分かりやすいレイアウトにし、イラストやキャラクターに使う色の数や分量を抑制することで、生徒の集中を妨げないよう配慮している。 ●左利きの生徒の学習しやすさを考慮して、原則として教材文字を上、書き込み欄を下に配置し、利き手によらず教材文字が見やすいよう工夫している。 ●振り仮名などの小さい文字でも読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用している。 ●色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて検証を行っている。 ●教科書と同じ内容の拡大教科書の発行を予定している。 |
| 人権上の配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ●作例や写真・イラストなどに登場する人物について、性別による役割の固定化や人数の偏りがないように配慮している。 |
| 表記・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ●文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしている。表記や用語は統一した基準を設けている。 |
| 文字・印刷・造本 | <ul style="list-style-type: none"> ●本文書体は、小学校教科書で使用している教科書体に筆遣いや字形を合わせた、特別な明朝体を開発・使用している。 ●AB判のワイドな紙面を活用して、図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させている。 ●毛筆教材文字のページは半紙の縦横比率に合わせてあり、半紙での配列の参考になる。 ●硬筆文字や毛筆文字は、印刷の濃度や色味を調整して、より本物に近く、見やすいものになっている。印刷は鮮明で正確である。 ●用紙は、鉛筆で書き込みがしやすく、十分な強度を持ちながら軽量なものを開発している。 ●製本は堅牢で、長期使用に耐えられる。表紙は耐久性を高める加工をしている。 ●環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用している。 |

2. 対照表

| 学年 | 図書の構成・内容 | | 該当箇所 | 学習指導要領の内容 【知識及び技能】 | 時数 | 学期別配当 | |
|--------------|---|---|---|-----------------------|----|-------|------|
| | | | | | | 3学期制 | 2学期制 |
| | 書写で学ぶこと | | p. 2 - 3 | | 適宜 | | |
| | 書写の学習の進め方 | | p. 4 | | 適宜 | | |
| 一年 (20時間) | 1 小学校の学習を振り返ろう | 姿勢と筆記具の持ち方 | p. 6 - 7 | (3) Ⅰ (ア) | 1 | 7 | 9 |
| | | 字形と配列を整える書き方 | p. 8 - 9 | (3) Ⅰ (ア) | | | |
| | | 基本の点画の書き方 | p. 10 - 12 | (3) Ⅰ (ア) | | | |
| | | 自分の書き方を見直そう | p. 13 | (3) Ⅰ (ア) | | | |
| | 2 楷書の書き方を確かめよう | 点画の書き方と字形の整え方 | ㊦ p. 14 - 15 | (3) Ⅰ (ア) | 2 | | |
| | | 仮名の書き方と字形 | p. 16 - 18 | (3) Ⅰ (ア) | 2 | | |
| | | 文字の大きさと配列 | ㊦ p. 20 - 21 | (3) Ⅰ (ア) | 2 | | |
| | | 情報を整理した書き方 | p. 22 - 23 | (3) Ⅰ (ア) | 1 | | |
| | | ● 楷書のまとめ | p. 24 - 25 | (3) Ⅰ (ア) | 適宜 | | |
| | 生活に広げよう | 案内の手紙を書こう | ㊦ p. 26 - 27 | (3) Ⅰ (ア) | 1 | | |
| | 3 行書の書き方を学ぼう | 行書を書くときの動き | ㊦ p. 30 - 33 | (3) Ⅰ (イ) | 2 | | |
| | | 点画の連続 | ㊦ p. 34 - 35 | (3) Ⅰ (イ) | 2 | | |
| | | 点画の変化 | ㊦ p. 36 - 37 | (3) Ⅰ (イ) | 2 | | |
| ● 行書のまとめ① | | p. 38 - 39 | (3) Ⅰ (イ) | 適宜 | | | |
| 生活に広げよう | 年賀状を書こう | p. 42 - 43 | (3) Ⅰ (イ) | 1 | | | |
| ◆文字のいづみ | ● 書き初めをしよう | ㊦ p.44, 97-100 | (3) Ⅰ (ア)・(イ) | 1 | | | |
| 生活に広げよう | 職場訪問をしよう | ㊦ p. 45 - 47 | (3) Ⅰ (ア)・(イ) | 3 | | | |
| ◆文字のいづみ | ・いろは歌 ・文字の成り立ちと移り変わり ・伝統的な用具・用材 ・書いて味わおう「竹取物語」 | p. 19 p. 28 - 29 p. 40 - 41 p. 48 | (3) Ⅰ (ア)・(イ) | 適宜 | | | |
| 二年 (20時間) | 1 行書の書き方を学ぼう | 点画の省略 | ㊦ p. 50 - 51 | (3) Ⅱ (ア) | 3 | 8 | 10 |
| | | 筆順の変化 | ㊦ p. 52 - 53 | (3) Ⅱ (ア) | 3 | | |
| | | ● 行書のまとめ② | p. 54 - 55 | (3) Ⅱ (ア) | 適宜 | | |
| | 2 行書と仮名を交えて書こう | 行書と仮名の調和 | ㊦ p. 56 - 57 | (3) Ⅱ (ア) | 2 | | |
| | | 行書に調和する仮名 | p. 58 - 60 | (3) Ⅱ (ア) | 2 | | |
| | | 文字の大きさと配列 | ㊦ p. 62 - 63 | (3) Ⅱ (ア) | 2 | | |
| | 生活に広げよう | 本のポップを書こう | ㊦ p. 64 - 65 | (3) Ⅱ (イ) | 1 | | |
| | 3 楷書と行書を選んで書こう | 楷書と行書の使い分け | p. 66 - 67 | (3) Ⅱ (イ) | 1 | | |
| | | 場面や目的に応じた書き方 | p. 68 - 69 | (3) Ⅱ (イ) | 2 | | |
| | | ● 行書のまとめ③ | p. 70 - 71 | (3) Ⅱ (イ) | 適宜 | | |
| ◆文字のいづみ | ● 書き初めをしよう | ㊦ p.74, 101-104 | (3) Ⅱ (ア)・(イ) | 1 | | | |
| 生活に広げよう | 防災訓練に参加しよう | p. 75 - 77 | (3) Ⅱ (ア)・(イ) | 3 | | | |
| ◆文字のいづみ | ・文字と絵 ・手書き文字と活字 ・書いて味わおう「平家物語」 | p. 61 p. 72 - 73 p. 78 | (3) Ⅱ (ア)・(イ) | 適宜 | | | |
| 三年 (10時間) | 1 効果的に文字を書こう | 身の回りの文字の目的と工夫 | p. 80 - 81 | (3) Ⅲ (ア) | 2 | 4 | 4 |
| | | 手書き文字の特徴 | p. 82 - 83 | (3) Ⅲ (ア) | 2 | | |
| | | 書き手の意図と表現 | p. 86 - 87 | (3) Ⅲ (ア) | 2 | | |
| | | 現代につながる文字の役割 | p. 88 - 89 | (3) Ⅲ (ア) | 1 | | |
| | ◆文字のいづみ | ● 書き初めをしよう | ㊦ p.90, 105-108 | (3) Ⅲ (ア) | 1 | | |
| | 生活に広げよう | 思いを文字で表そう | ㊦ p. 91 - 93 | (3) Ⅲ (ア) | 2 | | |
| | ◆文字のいづみ | ・仕事の中の手書き文字 ・古典をもとに ・書いて味わおう「おくのほそ道」 ・二十四節気と季節の挨拶 ・書くことを楽しむ 日本の文字文化、世界の文字文化 | p. 84 - 85 p. 94 - 95 p. 96 p. 109 - 112 | (3) Ⅲ (ア) | 適宜 | | |
| 適宜 | 書写活用ブック | さまざまな書式 (手紙、新聞、リーフレット、ポスター、フリップ、レポート、原稿用紙 ほか) | ㊦ p. (2) - (9) | | 適宜 | | |
| | | 行書の部分の形 | p. (10) - (11) | | | | |
| | | 常用漢字表、人名用漢字表 | p. (12) - (32) | | | | |

㊦ インターネットを使って、動画や資料を活用できる単元。